

保護司会連絡協議会会長賞

社会と繋がること

堺市立 月州中学校 三年

橋 詰 和 奏

「生きていけないかも知れない。」今までにそう思ったことはありますか。ほとんどの人はないと思います。でも、ゼロではありません。「コンビニの廃棄で飢えをしのいだ。」「喋った瞬間殴られた。」これは、私が以前見学に行った奈良少年刑務所で購入した、受刑者に詩の授業をした人の本に書いてあったことです。この本には、罪を犯した人はみんな、自分のことを受け入れてもらえず、孤独の中で生きてきたことが書かれています。普段あたり前の暮らしを送っている私たちには考えられないような過酷な生活を送ってきたと知りました。

罪を犯した人にとって、犯罪は唯一の身を守る方法でした。例えば人を殺した人にはずっと暴力や虐待を受けていて自分が殺されそうになったなどという背景があります。また精神が不安定だったという場合もあります。人に自分のことを受け入れてもらえなかったり、社会から孤立して生活が困難だったり社会福祉の網からこぼれ落ちた人たちもいます。人との関わりも正しい知識もない中で自分が生きるためにはその方法しかないと思ひ罪

を犯したはずで。

私はこのような事を知ってから世の中でおこる犯罪は罪を犯した人だけの問題ではないと思いました。虐待を受けていても罪を犯さなければ被害者ですが、身を守るために罪を犯すと加害者になります。周りが気付き、助けてあげられれば「犯罪者」になることはなかったと思うからです。

ここまでの犯罪についての内容は、再犯においても言えることだと思えます。出所しても「元犯罪者だから。」という理由で社会から孤立したり、働けず生活が困難になったりなどと罪を犯す前と同じ社会からはみ出た状況になっているからです。

また「罪を犯した人は怖い。」というイメージが再犯と深く関わっていると思います。「罪を犯した人は怖い。」その思いが直接ストレスを与えているだけでなく、そこから人との関わりがなくなり人や地域の輪と離れ不安を感じることもあると思うからです。さらにそのイメージのせいで就職できないと、お金がなく生活できない、社会との繋がりが無くなる、生活習慣が乱れメンタルが

弱ったり気持ちが不安定になるなど様々な問題が起こると思います。「仕事に行く。」という目的がないと朝起きるのが遅くなり、夜は遅くまでおきていたり昼夜逆転することもあります。多くの人と生活時間がずれることで、より溝が深まったり正してくれる人と関われなくなるという悪循環に陥ると考えました。

再犯を防ぎ、あたり前の生活を送ってもらうためには社会との繋がりが最も大切だと思います。再犯時には約七割の人が無職だったという事実や今までの考えから社会と繋がるためには仕事に就くことが必要だと考えました。でも、それは簡単なことではありません。「罪を犯した人は怖い。」というイメージから会社の職員が雇用を反対したり、「罪を犯した人を雇っている会社」として会社自体に怖いイメージを持たれるということもあるからです。それでも少しでも多くの人に辛い思いを越えて社会復帰してもらうためには私たちの受け止め方を変える必要があると考えました。でも自分たちのあたり前の中だけで関わるだけでは改善に繋がらないと思います。加害者になる前は被害者だった人たちの心は繊細だと知ったからです。自分たちが「助けてい」と思い、気遣いながら心を開きやすい環境をつくり、焦らず待つことが重要だと思います。

私たちが会社をつくり、人を雇うことはできませんが、人のことを想い「助けてい」という思いを伝えることで居場所がで

会復帰に繋がると思います。人のことをよく考えて、人を傷付けない行動、人を受け入れようとする行動を心掛けていくと、自然に人との関わりを生み出し再犯防止に貢献できると思います。私を含めた一人一人が少しずつ変化させる意識をすることでよりよい社会、安心して参加・復帰できる社会をつくっていききたいと思っています。

